

仮定法の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール：ありうる「もし」と、事実と違う「もしも」を、動詞の形で言い分けられる

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 高校範囲の4つの型を通します (確認は4択)

気づき AとB、どちらも「もし」の文。でも動詞の形が違う。何が違う？

A	If it rains tomorrow, I will stay home.
B	If I were a bird, I would fly to school.

Aは本当に起こるかもしれない話 (あしたの雨) —動詞はふつうの現在形。Bは今の事実と違う想像 (人間は鳥ではない) —動詞をひとつ過去にずらす。過去形は「昔の話」ではなく、現実からの距離。この距離の合図が仮定法です。

整理 仮定法の4つの基本型 (高校範囲の骨組み)

形	作り方	表すこと	例文
仮定法過去	If + S + 過去形, S + would / could / might + 動詞の原形	今の事実と違う想像	If I had more time, I would read more books. もっと時間があれば、もっと本を読むのに。(=今は時間がない)
仮定法過去完了	If + S + had + 過去分詞, S + would / could / might + have + 過去分詞	過去の事実と違う想像	If I had studied harder, I could have passed the exam. もっと勉強していたら、受かっていたのに。(=実際は勉強不足で落ちた)
I wish + 仮定法	I wish + S + 過去形 (過去のことなら had + 過去分詞)	かなわない願い	I wish I could speak French. フランス語が話せたらなあ。(=話せない)
未来の「万一」	If + S + were to / should + 動詞の原形	起こりそうにない未来	If I were to win the lottery, I would travel around the world. 仮に宝くじが当たったら、世界一周するの。

発展：書き言葉では if を省略して倒置できます (Were it not for ～, ... / Had I known, ...)。without / but for ～ (～がなければ) も if の代わりに使えます。as if ～ (まるで～であるかのように) や if only (～でさえあればなあ) も、この型の応用として読めます。should のときは、結び側が will や命令文になることも多い形です。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) If I (knew / know / have known / would know) his phone number, I could call him right now.
- (2) If it (will be / were / would be / is) sunny tomorrow, we will go on a picnic.
- (3) If I (am / were / would be / had been) you, I would say sorry first.
- (4) I wish I (can / will be able to / could / have been able to) sing like her.

仮定法の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	knew	今は知らない＝事実と違う想像。ひとつ過去へ。if 節に would は入れない。
(2)	is	あした晴れるのはふつうにありうる話＝仮定法にしない。if 節に will も入れない。
(3)	were	わたしは君にはなれない＝事実と違う。be動詞は were が標準。
(4)	could	I wish の後は仮定法＝ can も過去形 could に。

つまずき①「過去形なのに、今の話？」

仮定法の過去形は時間の過去ではなく、現実からの距離を表します。英語では、ていねいに頼むときにも過去形を使います—Can you help me? より Could you help me? のほうが控えめに聞こえるのは、過去形が「現実から一步下がる」合図として働くから。仮定法も同じ仕組みです。だから If I had time は「時間があつたころ」ではなく「(今)時間があればなあ」。

つまずき② were か was か

仮定法の be動詞は、主語が I や it でも were が標準です (If I were you / If it were not for water)。話し言葉では was も使われますが、テストや英作文では were と書けば減点のしようがありません。まず were で覚えるのが安全です。

× If I was you, I would take the bus. → ○ If I were you, I would take the bus.
was でも通じるが、標準は were。「If I were you＝もし私が君なら」はこの形のまま丸ごと覚える。

つまずき③ ぜんぶ仮定法にしてしまう

「もし」と見たら反射的に would と書くのが、いちばん多い誤りです。ありうる話(あしたの天気・今度のテスト)はふつうの現在形+will。仮定法にするのは「事実と違う」「まず起こらない」と話し手が思っているときだけ。形の問題ではなく、話し手の判断の問題—ここが仮定法の核心です。

× If it would rain tomorrow, I will stay home. → ○ If it rains tomorrow, I will stay home.
if の中に will / would は入れないのが原則。「あしたの雨」はありうる話なので現在形でよい。

つまずき④ 過去の後悔は「had+過去分詞」まで戻す

「あのとき～していれば」は過去の事実と違う想像なので、過去形からさらにもう一步、had+過去分詞まで下がります。結び側も would have+過去分詞。中学で習った現在完了の形がここで再登場します—完了形は「積み上げ」、仮定法過去完了は「積み上げの世界線ごとと変える」イメージです。

授業のひとつ 導入では、生徒の実感に近い「もしも」を1つ黒板に書くと入りが良くなります(例: If we had no homework today, ...)。文法の説明よりも先に「言いたいことがある」状態を作るのがこの単元のコツです。

